

## “この調査まづ目的を考える”

統計調査を行なう場合、まづ第一番目に考えることは、この調査をすることによって何が明らかにされ、何を知らうとするのかという調査の目的をはつきりさせる必要がある。ただ、ばく然と統計調査をすれば何かのために使われるだろうという、だろりの考え方では困るのであつて、社会経済機構の急速な進展に歩調を合わせ、それを推進させていくための精密な歯車の一つである統計資料を得るために、何を、どのように、そしてその結果をどのように表章し、利用できることを前提に考えて企画することが大切で、そのためには目的をはつきりと設定させる必要がある。

### “だぶらずに洩らさずに 対象をはあく”

調査の目的が、はつきりと定まると、その目的によつて、何を対象として調査するか、集団の何を調べればよいか、個人を対象とするか、世帯、事業所などを対象とするものかなどをはつきりと定義づけ、正確な統計の作成をするために調査区が設定され、その調査区内の調査対象を重複なく、洩れないように調査することになる、国調などでは対象を、調査区内にふだん住んでいる人と定め、外国人も調査するが、外国の軍人や軍属は除くとか船に乗りこんでいる人や、病院に入院している人、その他いろいろな特定の人についても調査するところが、はつきりと定義されている。

### “農繁期調査期日などは忘れ”

何んのために、何を（誰を）調査するか、そしていつこれらを調査するかという調査期日を明確に定めなければならない。調査の期日には厳密に言うところ三種類あつて、調査対象をとらえる時点（期間）、調査事項を規定する時点（期間）および実査を行なう時点（期間）である。国勢調査に例をとると調査対象をとらえる時点は10月1日午前零時であり、調査事項を規定する時点としては10月1日を時点として大よその事項は調査される

が、仕事の関係などは調査期日10月1日以前（9月24日から30日）の一週間仕事をしたか、その仕事の内容などを調査される。また実査を行なう期間は10月1日から8日までとなつている。調査期日は、調査を円滑に行なうため、農繁期などのように特殊な条件の影響を受けないように最もふさわしい時期を選ぶべきである。

### “ややっこしい調査は他計式と決め”

ふつうの調査であると調査区が設けられ、調査員が受持調査区の被対象者について調査票を配付して記入をしてもらいそれを集める方法と、調査員自身が調査対象から調査事項を聞きとり記入する方法があり、前者を自計申告（自記式）、後者を他計申告（他計式）といい、調査内容が複雑であるほどこの他計式が採用される。

### “適材が適所に無難な異動評”

ふつうの人事異動は、大てい4月の年度始か、学年始めに行なわれるが、今回の県の人事異動は9月1日1,400人以上にのぼる大異動が行なわれた。これは9月1日に機構改革が行なわれそれに伴うもの。

このような大異動になると異動した者、しない者何れもが、仕事の上で何んらかの影響があり9月の初旬は文字通りのテンヤワチャに終始してしまつた。統計課も12人の転入、転出者で各係の異動も行なわれた。

### “1枚の辞令に栄転左遷など”

好むと好まざるとに係わらず1枚の辞令が悲喜こもごもの様相を現出させる。異動にはよく栄転だとか、左遷だとかということが言われるけれど、集団の目的達成のために、それぞれ与えられた職場に集団の一員として全力をつくしているわけで栄転だとか、左遷だとかということおかし。もつとも陽の当る場所、地味で陽の当らぬ職場、昇進が割合と早くできるような職場などもあつて、暗黙のうちに栄転とか左遷とかいつた外見上の見方がそのような悪い見方、考え方を作りあげてしまうのかも知れない。



⑧

9月15日、この日はいわゆる「敬老の日」でありその対称となる老人の定義も定かではない。結局人体の老化現象あるいは老人の生理的特徴等からその基準を判断するにすぎない。したがって、老人を時期的に定義づけようとする場合、一生を3時期つまり発育期・成熟期・衰退期に大別し、その最終時期を老年期とみることができると云つても幾才から衰退期に入るのかその個人差はあまりにも大きい。そこで最近の老人医学では上述の成熟期と老年期の中間に移行期として向老期を考へ、この期間にすでに老人に変化していく過程を想定する。この向老期のはじまる40才前後からを老人の対象とし、老人性疾患の発生を未然に防止するにしなければならないとしている。ところが現代社会には向老期などどこもふく風の昭和2世の精力的な若ハ集団が充満している。事実このグループ、すなわち終戦後に誕生した若者たちの総数は約3,800万人で総人口の38%に当る。これに対し向老期をかかへた明治大正年代人は約3,000万人にすぎない。したがって近頃の若い者はなどという少数グループの愚痴を嘲笑で受けとめる。たしかに、現代社会各界の重要ポストはこの30%少数階層の年層によつて占めら

れ、そこから打出されるあらゆる方向は彼等の経験と常識のなかから創造される。しかし国内各層の与論の発生は70%の昭和年代層によつて支持される。この年代の社会進展のスピードは明治大正年代の比ではない。現代の1年という物理的時間の長さは明治大正時代の1年と少しも変りはしない。だが、これを人間社会の変化という観点からいえば、変化の相対速度としてこれを見るとき、現代の1年は明治大正時代の10年乃至20年に相当するだけの変化をみることができると言はれ、相対的社会変化速度という尺度でこれをはかりなおしてみると、その物指しの長さは将来更に短縮されることが予測される。

この社会変化の著しい現代人がいふている現世に対応しながら培つた彼等なりの常識と経験は、向老期に突入した私たちのそれと全く同じ筈がない。現代社会の政治、経済、文化面においても世相を暗くする摩さつがあつたとをたたない。その要因も案外こうした断層のなかにあるような気がしてならない。同時に私たち年代の者は現代人たちを理解すると同時に彼等との共鳴点を見出す努力が必要なのではあるまいか。「敬老の日」にちなんでの雑感である。

県の機構改革と統計課員の異動

— 9月1日付で —

● 機構改革

昭和42年9月1日をもつて茨城県開発部統計課は、茨城県統計課となつた。また課内の係の名称も新しく行政資料係が誕生したほか、経済統計係が消費統計係に企画係が県勢統計係に広報資料係が企画調整係に変更された。

● 統計係員の異動（敬称略）

転出者

	新	旧
江幡武雄	大宮土木事務所総務課長	統計課長補佐兼人口学事統計係長
青山政顕	石岡保健所主幹	統計課農林統計係長
小室高成	県西地方県民室主幹	統計課人口学事統計係
関 操	総務部税務課	統計課経済統計係
川崎 秋	鹿行農林事務所	統計課農林統計係
庄司和治	鉾田地方福祉事務所	統計課企画係
石川 治	総務部地方課	統計課労働統計係
大崎貞徳	商工労働部商政課	統計課広報資料係
菊池冬子	道路補修事務所	統計課労働統計係
川崎 卓	教育委員会出向	統計課人口学事統計係
長田雅光	高萩土木事務所	統計課企画係
上久保静江	総務部消防防災課	統計課庶務係

新

森島忠蔵	消費統計係長
武田省太郎	農林統計係長
宇留野真一郎	県勢統計係長
横田正弘	行政資料係長
大内公一	主幹(行政資料係付)
木口光男	主幹(人口学事統計係付)
大原賢二	主幹(商工統計係付)
打越幸道	主幹(県勢統計係付)
富永徳有	主幹(農林統計係付)
鈴木清寿	主幹(消費統計係付)
斉藤 昭	商工統計係
立川礼子	消費統計係
佐川忠志	労働統計係
北野澄子	行政資料係
豊田初江	県勢統計係
長山秀勝	人口学事統計係
山崎幸雄	〃
荒木武平	企画調整係
亀谷 正	庶務係

旧

経済統計係長
青少年室主幹
企画係長
広報資料係付主幹
拓務課主幹
人口学事統計係
商工統計係
広報資料係
農林統計係
民生部社会福祉課
開発部開発第一課
開発部鹿島開発第二課
大子地方福祉事務所
議会事務局
取手家畜保健衛生所
江戸崎地方福祉事務所
開発部鹿島開発第一課
開発部鹿島開発第二課
教育庁

転入者及昇格者

	新	旧
石崎百世	統計課長兼企画室副参事	統計課長
平沢義之	統計課課長補佐	住宅課課長補佐
田中文司	主査兼企画調整係長	広報資料係長